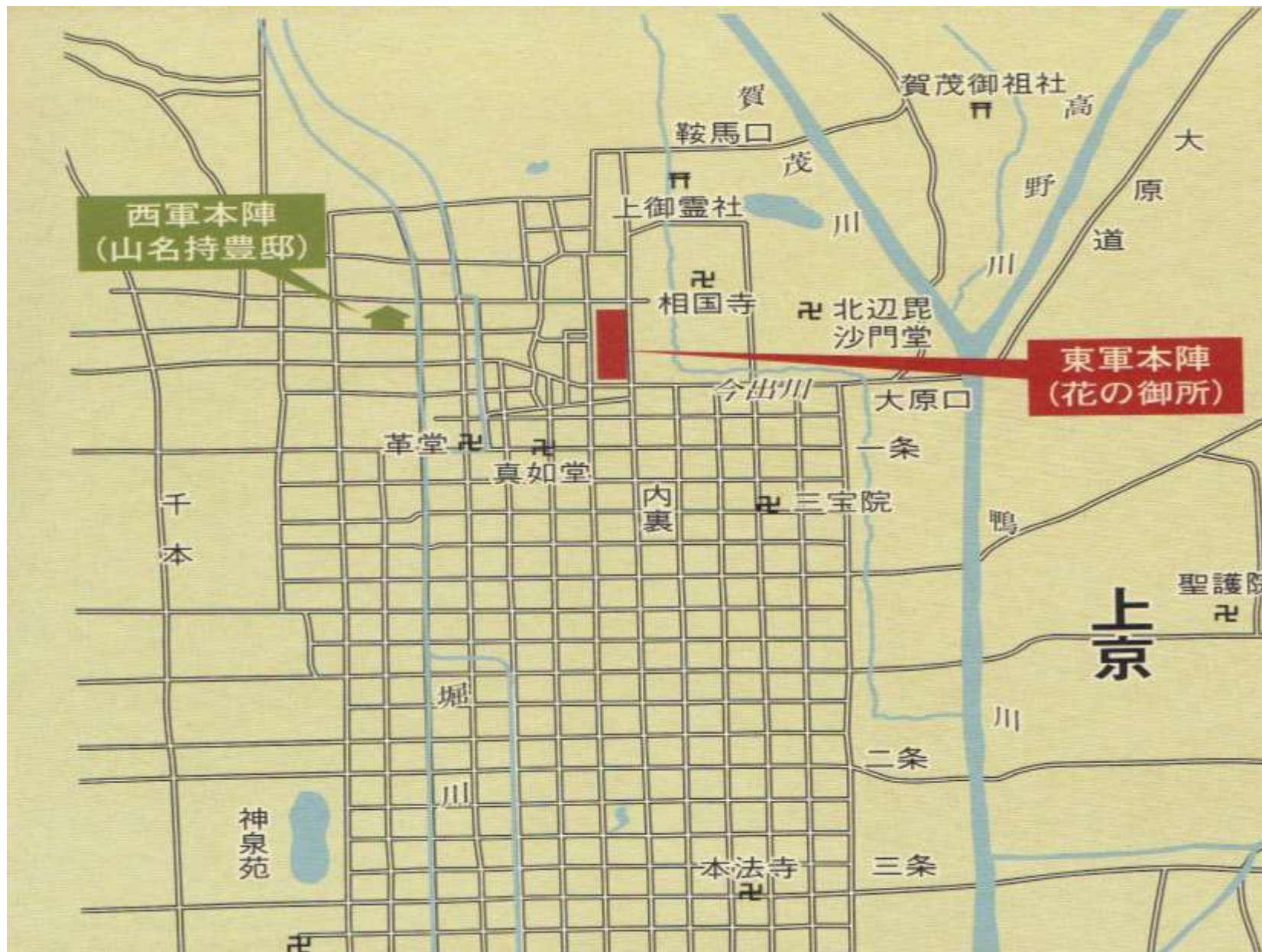


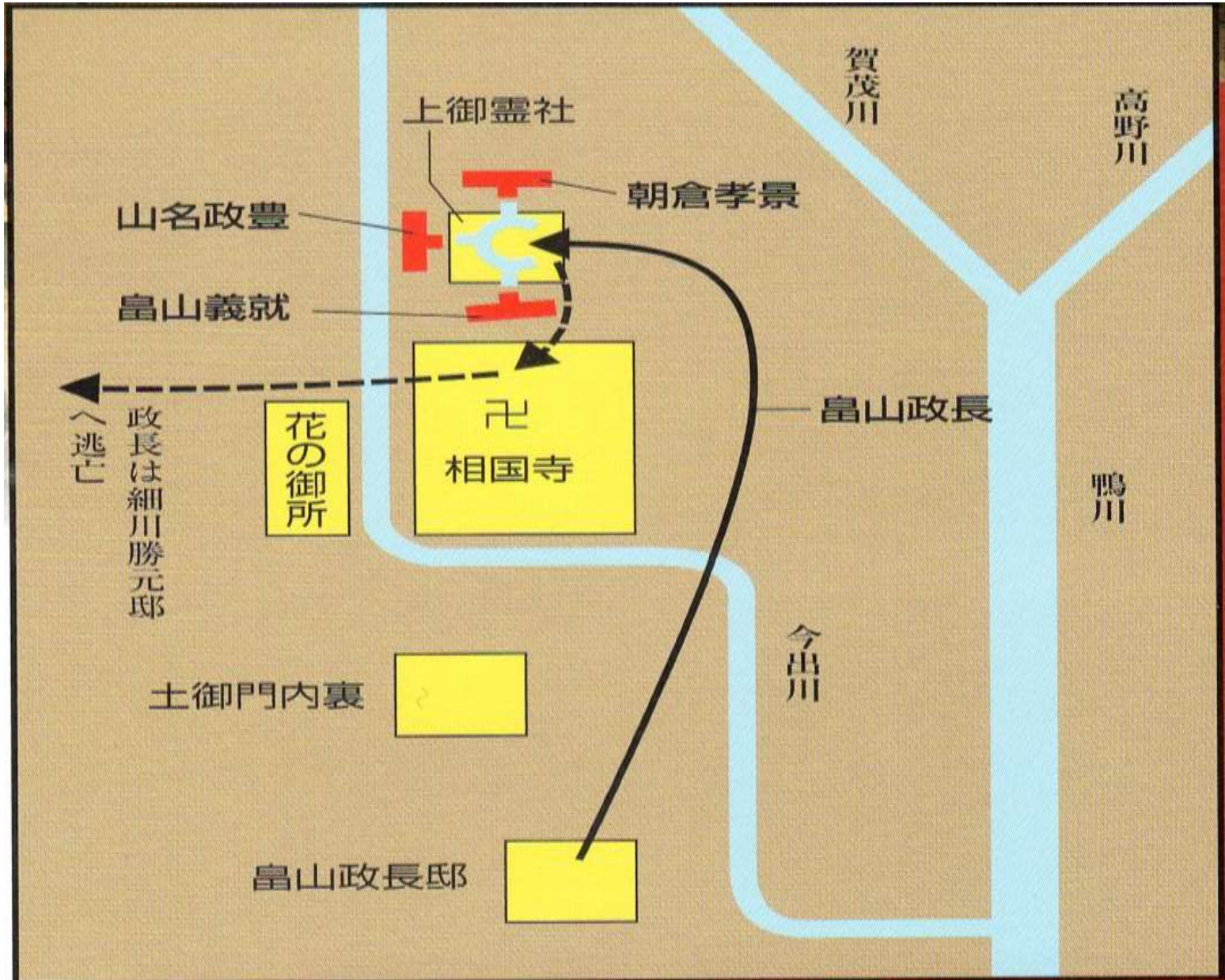
応仁の乱勃発～上御霊社の戦い～



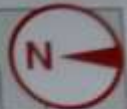
6. 応仁の乱勃発～上御霊社の戦い

- 時期: 1月18日午後4時ごろ～1月19日午前4時ごろ
- 主戦場: 上御霊神社
- 概要: 1月18日午前4時ごろ、畠山政長が邸宅(春日万里小路)に火を放ち、上御霊社に陣を構える。
- 同日午後4時ごろ、義就の軍勢が政長の陣に押し寄せ、戦闘が始まる。翌日午前4時ごろまで続いた。
- 軍勢: 政長軍2,000名足らず。
義就側は手勢3,000余騎十山名政豊、朝倉孝景の援軍が攻撃に参加。
- 政長軍40～50名の戦死者。御霊社の拝殿に放火して撤退。敗軍の将政長は、細川勝元邸に匿われた。

上御霊社の戦い



鞍馬口駅周辺案内図 The Station And Its Environs



京都市交響楽団練習場
Rehearsal Studio of
Kyoto Symphony Orchestra

上善寺 卍
Jozerji Temple

閑臥庵 卍
Kanga-an Temple

出雲路郵便局
Izumoi Post Office

御霊神社(上影雲)
Goryo Jinja Shrine
Kamigoryo

鴨沂高等学校
Onki High School

相国寺 承天閣美術館
Shokokuji Jotenkaku Museum

相国寺 卍
Shokokuji Temple

烏丸中学校
Karasuma Junior High School

瑞春院(権の寺) 卍
Zuishunin Temple

同志社大学
烏丸キャンパス
Doshisha University
Karasuma Campus

上御霊前交番
Kamigoryo Mae Police-Box

烏丸通
Karasuma St

京都鞍馬口
医療センター
Kyoto Kuramaguchi
Medical Center

2 現在地
You Are Here Now

室町通
Muromachi St

室町小学校
Muromachi
Elementary School

大友整形外科
Ohtomo Orthopedic Clinic

室町上立売郵便
Muromachimitachi
Post Office

上御霊神社



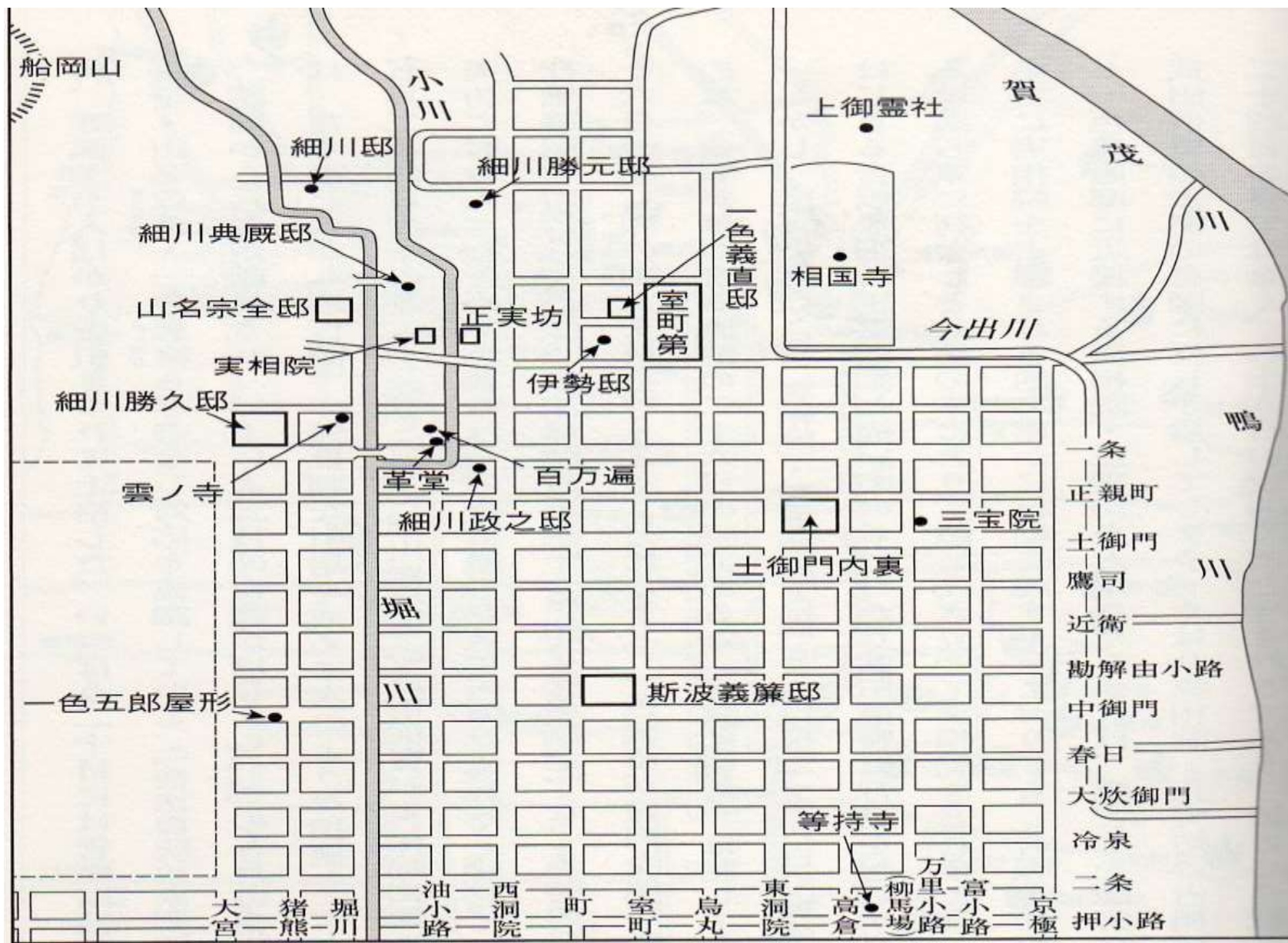
石碑一応仁の乱勃発地



境内にも石碑：揮毫細川護熙



7. 東西両軍の激闘～一条大宮の戦い



一条大宮の戦い

- 時期: 5月26日午前4時ごろ～5月27日午後6時ごろ
- 主戦場: 諸大名の館が建ち並ぶ北西部。東は百万遍(知恩寺)、西は船岡山から一条大宮にかけて、南は二条辺り一帯で市街戦を展開。
- 概要: 上御霊社の戦いに際し将軍義政の命令を忠実に守り、畠山政長に援軍を送らなかったことから、細川勝元は「政長を見捨てた」と武将としての面目を失う。
- 味方の軍を続々と京都に集めて、反撃の準備。
- 花の御所を占拠して、陣を構える。←東陣
- 山名側は宗全邸を中心に布陣。←西陣
- このときの両軍の位置が東軍、西軍の呼称につながる。

一条大宮の戦い～東西両軍の陣営

東軍

細川勝元

畠山政長

斯波義敏

24か国／16万人

西軍

山名宗全

畠山義就

斯波義廉

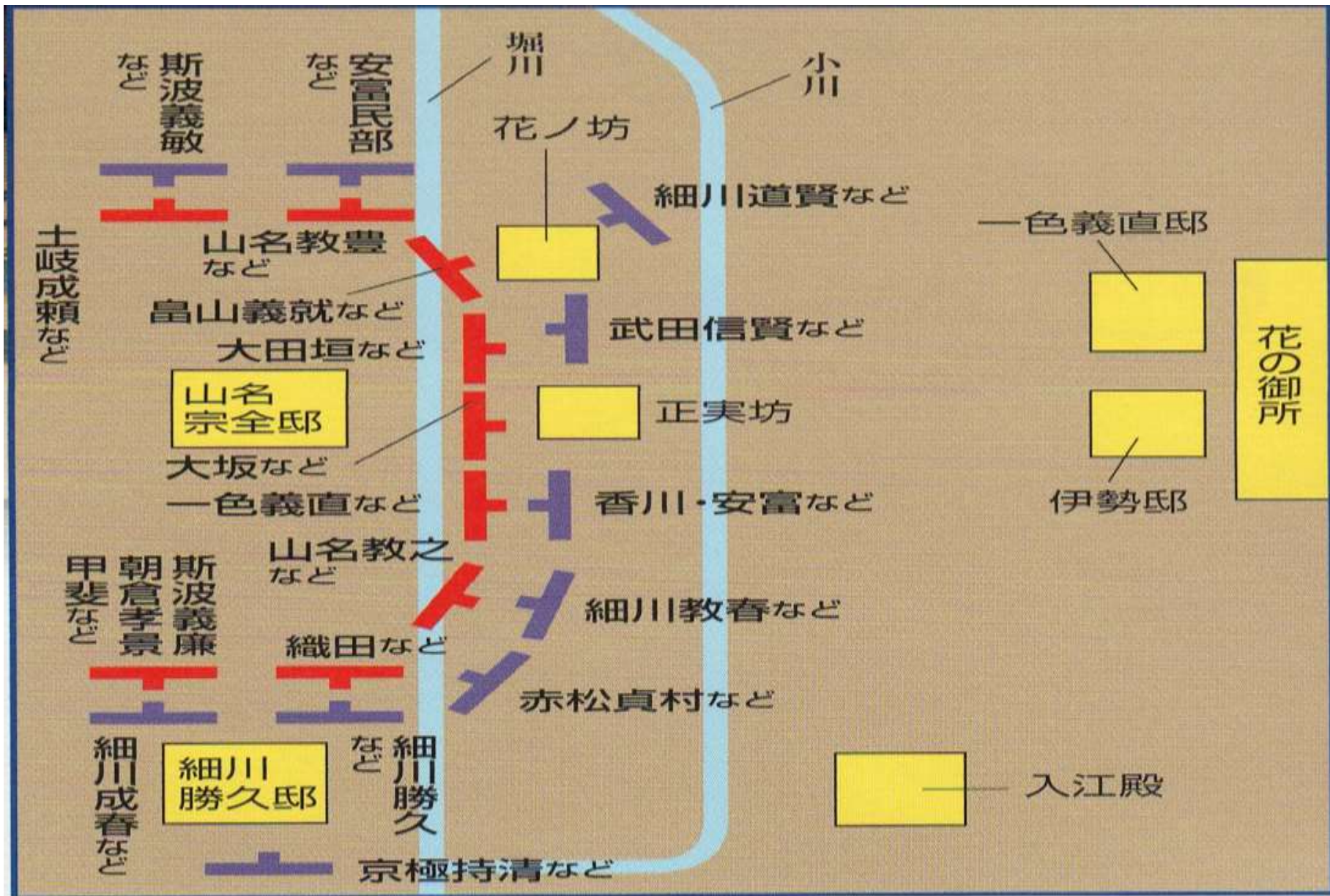
20か国／11万人

* 軍記物語『応仁記』: 大乱勃発時の軍勢は東軍16万、西軍11万と記す。これは、総動員兵力であり、全軍が一斉に京都に集まったわけではない。これほどの大軍勢が軍事行動を展開する広さはない。また、数字に誇張もあろう。

一条大宮の戦い

- 5月26日：東西両軍が京都の各所で激突。両軍の放火作戦により京都北部（船岡山以南・二条以北）の武家・公家の邸宅や寺院の多くが焼失した。
- 最も激戦となったのは一条大宮の細川勝久邸だった。西軍の斯波義廉や朝倉孝景が攻めかかり、細川成之や成治らが迎え撃つ。さらに、東軍の京極持清、赤松政則の軍勢が細川勝久に加勢したため、激戦となった。
- 5月27日：細川勝久は邸に火を放って細川成之邸へ避難した。
- どちらかということ東軍優勢のうちに両軍とも軍勢を退いた。
- 5月28日：将軍義政が細川勝元と山名宗全に停戦命令を出す。

一条大宮の戦い



現地視察：東軍本陣 花の御所跡石碑（大聖寺境内）



大聖寺



西軍本陣 山名宗全邸跡



応仁の乱激戦地

百々橋礎石



8. 最大の激戦～相国寺の戦い～

- 時期：10月3日－10月4日
- 主戦場：相国寺
- 東軍の主な武将：畠山政長、武田信賢、赤松貞村、京極持清など3,000人
- 西軍の主な武将：畠山義就、大内政弘、一色義直、土岐成頼、六角高頼など2万人
- 概要：西軍側は1467年8月に大内政弘が入京し、9月に反攻を開始。
東軍を相国寺付近に封じ込めて包囲した。敵陣を中央突破して細川邸と花の御所にある幕府を分断する作戦に移る。

相国寺の戦い 西軍が相国寺占拠

- 10月3日：西軍は畠山義就、大内政弘らの主力を投入して、花の御所の東隣にある相国寺の東軍に総攻撃をかける。
- 東軍は、南東の烏丸邸・高倉邸や南西の今出川邸に陣を張り、京極持清や武田信賢らを配して防戦。
- 相国寺に火が上がると、東軍側に動揺が広まったのか全軍が撤退。西軍が相国寺を占拠した。
- 七重塔を残して焼け落ちた寺域の内外には両軍の死骸が累々と横たわり、周りの堀も死体で埋まったという。

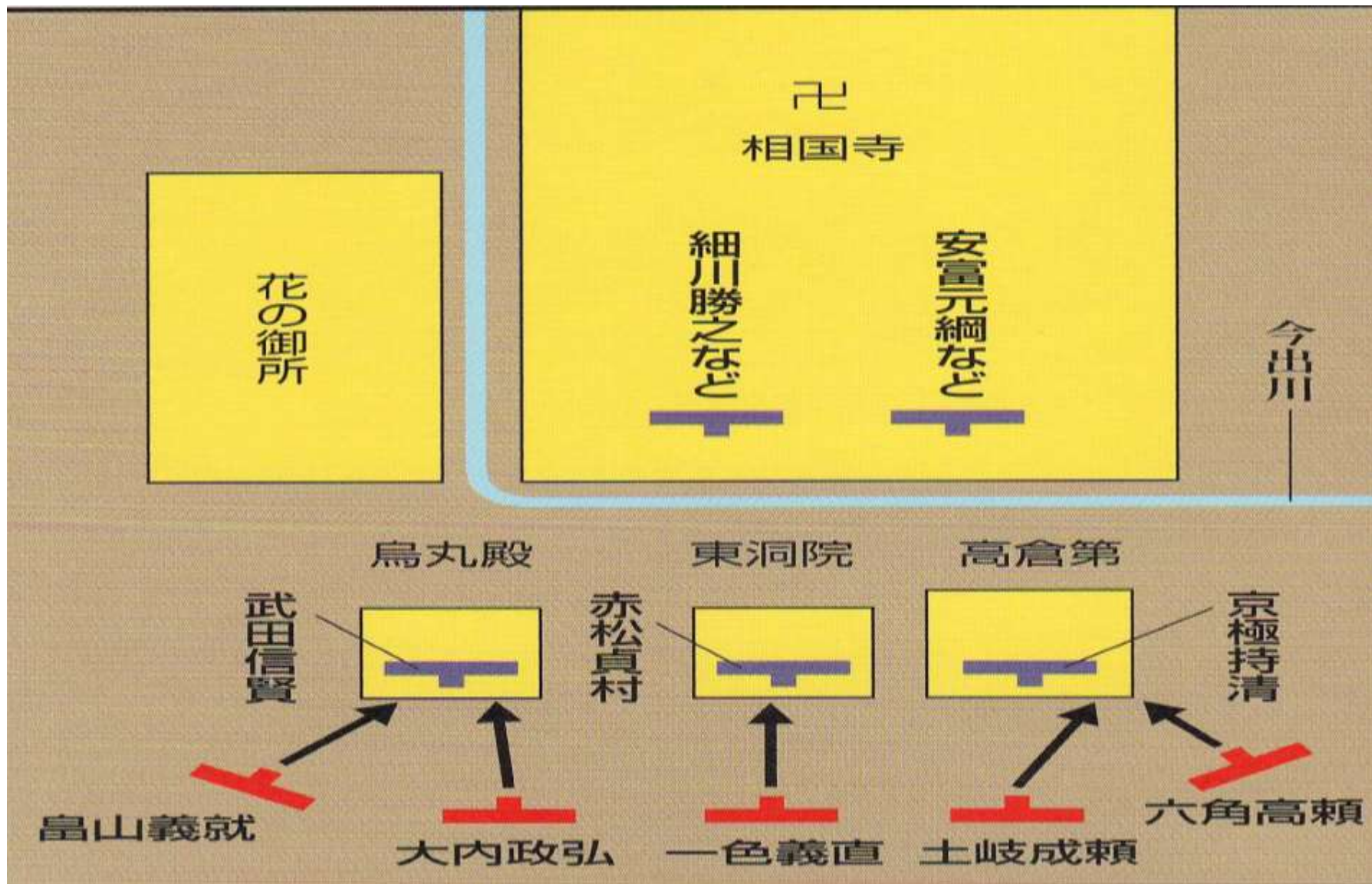
相国寺の戦い 東軍が相国寺奪還

- 10月4日：畠山政長ら3,000の兵を率いて相国寺に向かう。
- 政長は相国寺内に陣取る一色義直、六角高頼軍を急襲し、西軍を混乱に陥れる。
- 暴れまくる政長軍に西軍は崩れ、撤退を余儀なくされた。政長らは800もの首を奪い、相国寺の奪還に成功した。

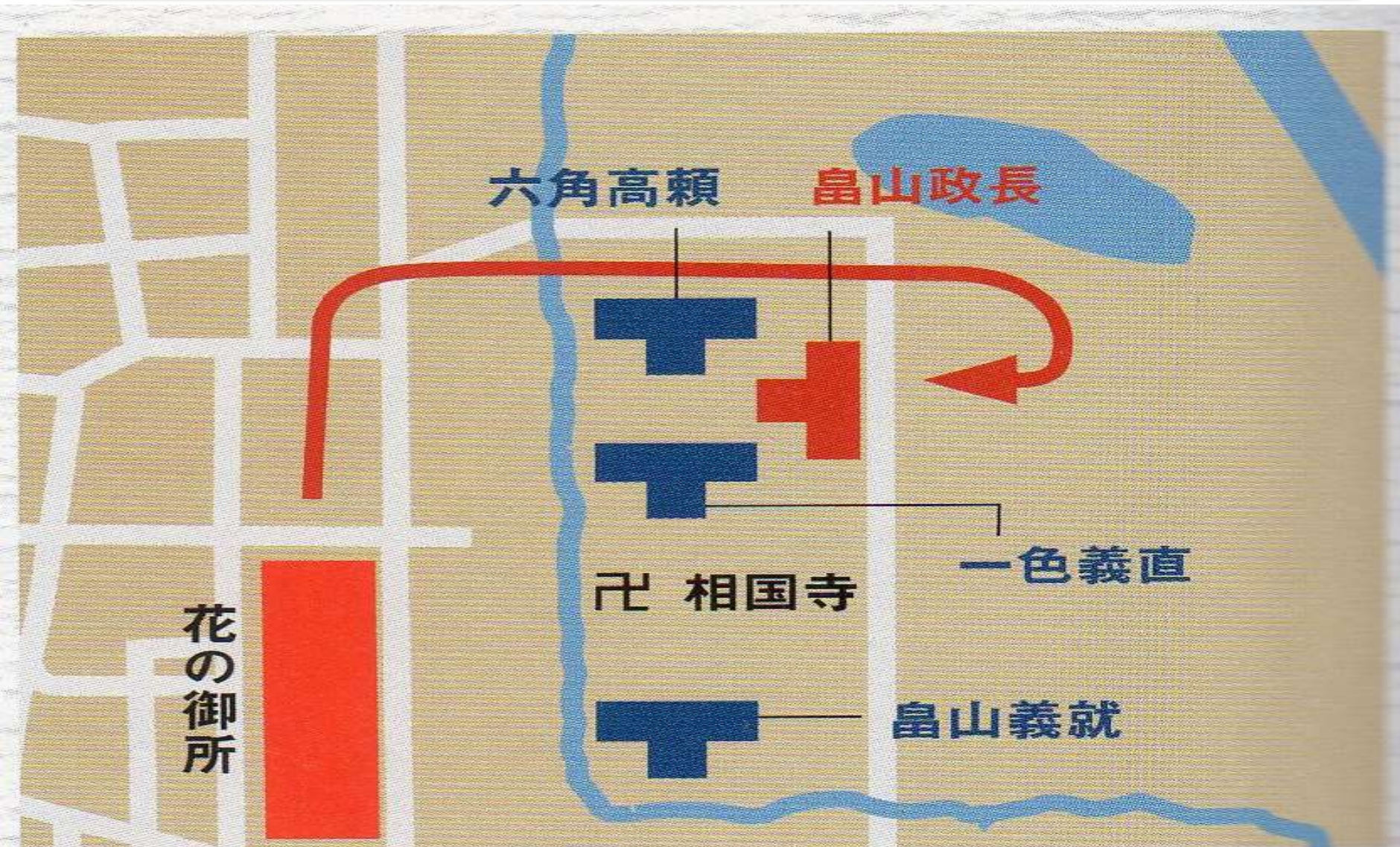
相国寺の戦い 痛み分け

- 痛み分けとなったこの大合戦だが、双方とも痛手は大きく、この相国寺の戦いを境に京都で大きな合戦は起こらなくなり、戦線は膠着状態となる。
- 戦火が地方に広がってゆく。地方での覇権争いが有力な守護大名の強大化や下克上の風潮を呼び、時代は大きく変化してゆく。そのような意味でもこの相国寺の戦いは大きな転換点になったといえよう。

相国寺の戦いー10月3日



相国寺の戦いー10月4日



相国寺の戦い～炎上する相国寺



相国寺



相国寺 法堂



ついでながら、足利義政墓所一相国寺



9. 地方への波及～摂津での戦い～

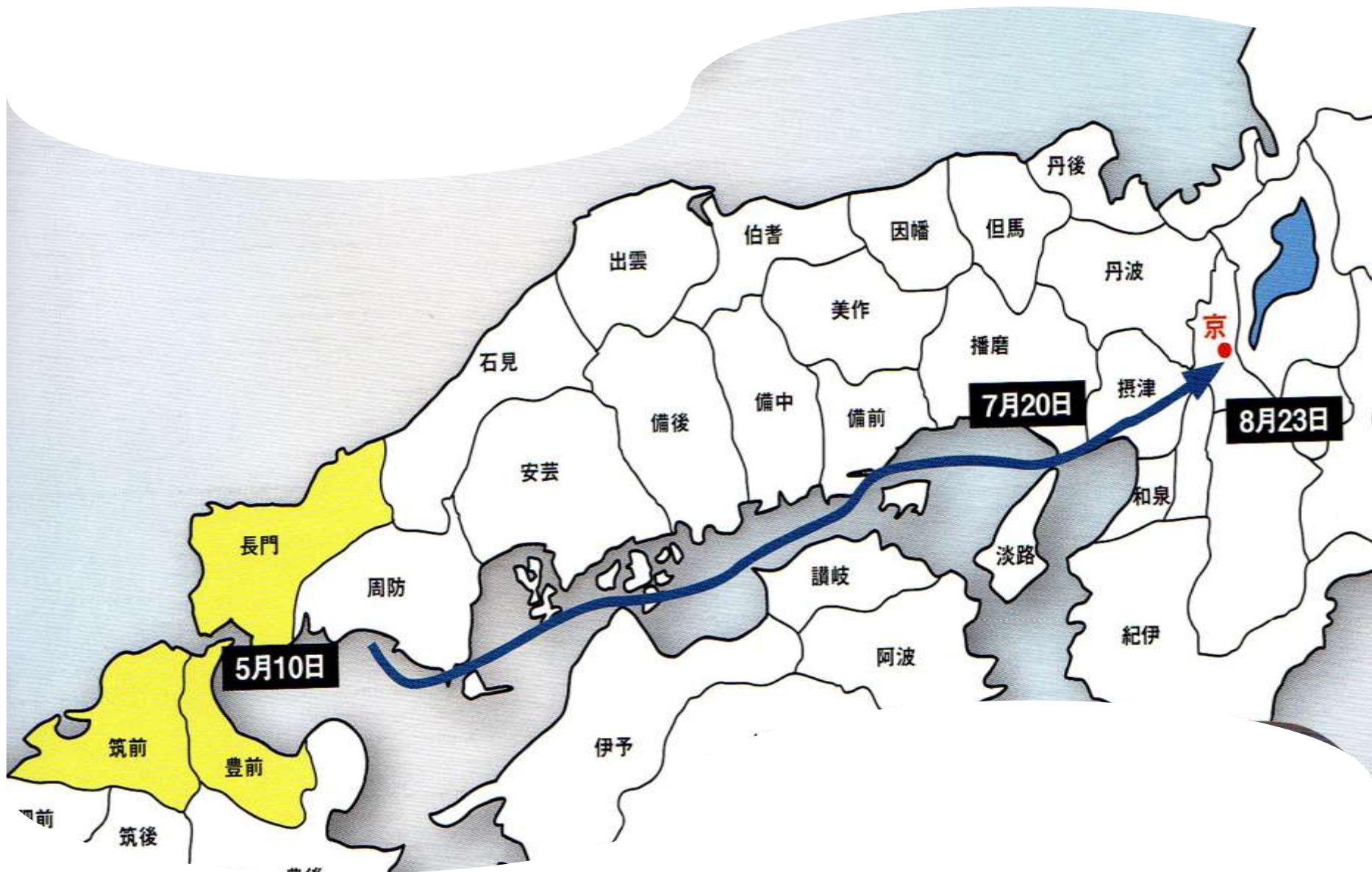
- 相国寺の戦い以降、京都での戦鬪は下火になる。
- 戦火は摂津、近江など畿内周辺をはじめとして、西は山陰、山陽から九州北部まで、東は東海、東山、北陸にかけて両軍の戦鬪は拡大し、世をあげて戦乱の渦中に巻き込まれる状態となった。
- ただ地方での戦いは京都での戦鬪と関連したものとは限らず、その土地独自の理由で戦われたものである。室町幕府の構造は家督争い、領地争いを生みやすいもので、火種はどこにでもあったのである。

摂津での戦い

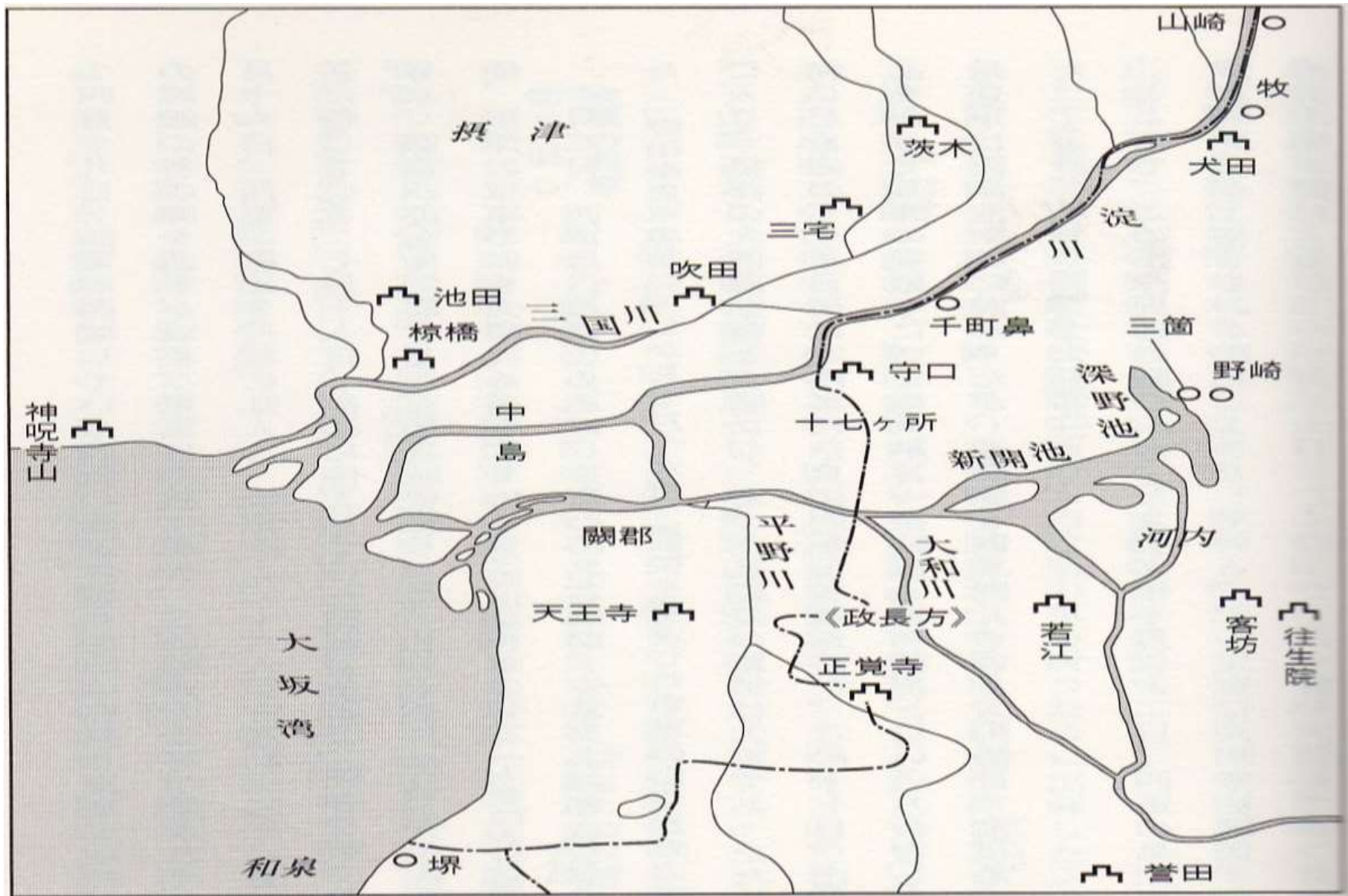
a. 前提

- 摂津は、細川勝元が守護を務める、東軍の領地。
- **摂津**は、西からの京都への玄関口であり、西国街道、淀川、大阪湾という**物流の大動脈を有する**。
- 応仁の乱に際して、尼崎から京都へ向かう舟運上の要衝に城が築かれ、西軍の大内政弘と東軍の間で激しい戦闘が展開された。
- **大内政弘の課題**: 3万の大軍を率いての近畿遠征であり、**兵糧の確保が最大の問題**。兵庫(神戸市)を補給拠点にして、数万石規模の米を国元から取り寄せ戦っていた。
- 大内政弘は京都に布陣していたものの、京都市内での戦いは小競り合いに終始し、
補給路確保のために摂津で懸命に戦っていたという。

大内政弘の上洛ルート



1470年頃の摂津



摂津での戦い

b. 大内政弘との戦い(上洛時)

- 1467年8月23日、大内政弘は大軍を率いて上洛。その際の動きは下記の通り。
- 5月10日：周防を出発、瀬戸内海を東上し、7月20日兵庫に上陸。
- 8月3日：陸路で兵庫を出発した大内軍は、**兵庫や尼崎を制圧**して上洛。**大内政弘は山口と京都をつなぐ補給路を確保。**

* 上洛途上の摂津各所での戦い

- **8月7日：尼崎を焼き討ち**にした。細川方と通じた地元の若衆が敵対したため。
- **8月10日には難波水堂**でも戦いがあった。
- 東軍の**赤松政則が棕橋**に陣取って大内軍と戦うが**敗戦**。

敗戦の要因：**伊丹・池田・芥川氏**といった摂津国人だけではなく、細川氏の家臣・秋庭元明までもが**西軍に寝返った**。

摂津での戦いー補給路争奪戦

- 1469年(文明元)には、膠着状態となった京都から主戦場は摂津方面へ移る。
- 1469年(文明元)7月、大内政弘の軍勢が池田城のほか、摂津の東軍の城を大略攻め落とす。
- * 東軍の反撃
- 大内政弘の軍勢に席卷された摂津だったが、次第に勢いを盛り返して、各地で蜂起している。
- 9月には、大内軍に奪われた**棕橋**で細川勢が反撃して、大内勢を破った。
- 10月16日備後を平定した東軍の山名是豊の軍が赤松政秀らと**兵庫**に入り、摂津の大内政弘の軍勢と合戦となり、**東軍が奪還**した。

摂津での戦いー補給路争奪戦

- 10月22日山名是豊軍は摂津池田城へ。大内勢は前夜退いていた。
- 1469年は摂津が主戦場となっていたが、大内政弘軍が南山城へと移っていく。
- 1470年(文明2)5月20日、東軍は西軍の立て籠もる茨木城を攻め、これを落とした。
- 細川勝元の大内氏内部への調略に応じ、大内教幸(政弘の伯父)が東軍に寝返る。これに伴い、**1470年5月ごろ**摂津にいた大内軍が退散し、東軍に転じた。この時に、**尼崎一帯も東軍に奪還された**のであろう。
- 7月16日、西軍は摂津棕橋城を攻めたが、東軍はこれに対抗した。

摂津での戦いー補給路争奪戦

- 1473年(文明5)3月に宗全、5月に勝元が死去すると、山名・細川両氏の間で和睦交渉本格化。
- 和睦が成立すれば、大内政弘は京都で孤立することになる。この危機打開のため、再び摂津への攻撃し、**補給路の再確保**に注力する。
- 1473年(文明5)12月、大内軍が尼崎と大物城を攻略。
- 山名是豊の代官が守っていた兵庫については、1472年(文明4)に代官を退去させていたため、大内軍が押さえる。
- **兵庫と尼崎を奪還して、山口からの補給路を再び確保した大内政弘は1477年(文明9)まで戦い続けることになった。**

10. 東西両軍大将の死と和睦への動き

- 1472年(文明4)1月:宗全と勝元の間で和睦交渉はじまる。東軍赤松政則、西軍畠山義就、大内政弘の反対により頓挫。
- 1473年(文明5)3月18日:**西軍大将・山名宗全死去(70歳)**→
後継者:政豊
- 5月11日:**東軍大将・細川勝元死去(44歳)**→後継者:政元
- 1474年(文明6)2月:細川・山名両家の後継者同士で和睦交渉が進められる。
- 4月3日:細川と山名の 単独和睦成立。
 - *山名政豊:東軍に属して西軍と戦い始める。
 - *東軍・西軍の全体の和睦を交渉していたのだが、赤松政則、畠山義就、大内政弘などの反対により、細川・山名両家の和睦にとどまる。

11. 応仁の乱終結

- 西軍の主將的位置にいた大内政弘も、講和で東軍となった山名政豊が自分の領国に近い中国地方で動き出すと、領国帰還を迫られる。自邸に匿う足利義視の処遇などをカードに、講和の道を探り始めた。
- 1477年(文明9)9月、畠山義就は京都での争いに限界を感じて、河内へ下向し、独立国を目指し実力で領地を奪う戦いに邁進していく。
- 1477年(文明9)11月、大内政弘は日野富子の調停により、領国の安堵と従四位下の官位を得たことから、領国へ戻った。これに合わせて残った西軍が一斉に撤退。
- 応仁の乱は、勝者もなく、ようやく、むなしく終結した。